

西の京介護医療院やすらぎ

【西の京病院直営】

長期療養のための医療と日常生活の支援

今春西の京病院に新設された「西の京介護医療院やすらぎ」。介護医療院とは、「日常的な医学管理」や「看取りやターミナルケア」等の医療機能と「生活施設」としての機能を兼ね備え、**長期療養のための医療と日常生活のための支援（介護）を一体的に提供**する施設だ。少々耳新しい施設の特徴を同院施設長の齊藤 精久医師にうかがった。

2023年
4月新設！
独立型としては
奈良県初

齊藤 精久 施設長・医師
SAITO KIYOHISA

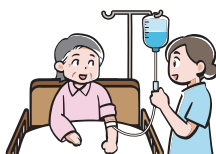
超高齢化が進む中、介護と医療が切り離せません。その両方を住居的な空間で行っています。ご家族との入所前面談に時間をかけ、双方の意思疎通を大切にしています。

先生の健康法

よく食べよく寝ることに尽きます。小4から続けているサッカー、当院の開設備等でなかなか練習に参加できないですが、落ち着いたら行きたいですね。



既存施設（病棟）からの転換型が多い中で、西の京病院では、奈良県でいち早く新設！

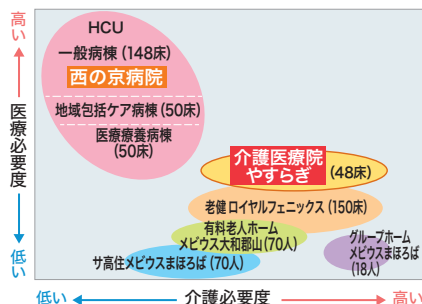


終始治療が必要な人を受け入れる高齢者施設はまだ少ない中で、**点滴、喀痰吸引や酸素投与が必要な人、胃ろうなど経管栄養を行っている場合も、医療管理体制が整っているの**で安心して入所できる。

医療管理体制の充実

康仁会での介護医療院のポジション

“一人ひとりの患者さまを一生をかけて見守る医療・介護の環境づくり”が信条



介護医療院は、地域包括ケアシステム強化のため、2017年の介護保険法改正に伴い、新たな介護保険施設として創設が進められているもので、医療ニーズのある要介護高齢者の長期療養・生活施設としての役割を持つ。

病院併設の安心

同院は西の京病院に隣接しており、利用者の体調が急変した時など緊急時には、**西の京病院が24時間体制で対応**。

在宅ではなかなか難しい（医療体制が整わない）看取りですが、病室でというの...といった家族の悩みに応えられています。



4人室



食堂・談話室からは若草山等の眺望

住まいと生活を医療が支える空間として、**ハード・ソフト両面のプライバシーの尊重と確保が重要とされ、4人室では間仕切り家具やカーテンなどで、長期療養生活に配慮する。**また看取りやターミナルケアの体制も整っており、**急性期病院とは異なる看取りが可能で、利用者・家族共に喜ばれている**そう。

長期の療養生活・ターミナルケア

経験豊富な専門職チーム

医師や看護師をはじめ、介護士・管理栄養士・理学療法士・作業療法士などがワンチームとなり、医療と生活支援を行っています。



地域貢献活動

コロナが落ち着いたなら、地域との交流拠点・ご家族とのふれあいの場として、介護予防教室や季節の催しなど地域貢献活動に向けて、施設長を中心に検討中です。

【スタッフの施設長評】
入所者さんや家族の方に
親身に寄り添い、コミュニ
ケーションを大事にされる
先生です。

利用できるのは

要介護（要介護1～要介護5）認定を受けた**65歳以上**の人（要支援は対象外）。または、**64歳以下でも特定疾患（がん・パーキンソン病・関節リウマチ等16疾患）**があり要介護認定を受けた**40歳以上**の人は申請可能。

また、**自宅での介護が難しく、日常的に医療ケアを必要とする人**など、介護度や緊急性の高い人が優先される。

災害時も安心

同施設は、**非常用発電設備を完備し**、災害時にも安全・安心な療養生活を送ることができる。



機能訓練室